

年頭に寄せて

新

年あけましておめでとございます。本年もよろしくお祈りします。

さて、2025年は団塊の世代の方、現在でも600万人以上いるとみられる方々が、すべて75歳以上の後期高齢者になるということで有名な年になっています。

少子化も解決することなく、超高齢社会が進行しています。この年に向けて、住み慣れた地域で病気や障害を抱えながらも、生き生きと暮らしていただけるよう、地域包括ケアシステムの構築が求められてきました。

現在、システムがかなり完成しつつある地域もあれば、まだまだのところもあります。

いずれにせよ、複数の疾患を抱え、何らかの障害がある高齢者がどんどん増えていくことは間違いなく、少子化で医療・介護を支えていく若い力がどんどん減っていく中で、十分な医療・介護体制を維持していくことは、かなり難しい状況になってきています。若い人はもちろん、中高年の皆さんも、

新

春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。日頃から東京都予防医学協会の皆様には、都の福祉保健医療行政にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

東京は今後、社会の高齢化がさらに進む一方、生産年齢人口は徐々に減少していきます。2050年には、都民のおよそ3人に1人が65歳以上という、極めて高齢化が進んだ社会が到来すると予測される中、医療・介護サービスへの需要の増大に対応し、将来にわたって都民の命と健康を守っていくことが求められています。

都は昨年3月、「東京都保健医療計画」

公益社団法人
東京都医師会 会長

尾崎治夫



自身の健康に責任を持ち、健診等の機会を利用して、自分の健康状態をしっかり把握し、病気になる手前で自らできる範囲での予防を心がけていく必要があります。

東京都予防医学協会は、まさしくこうした分野で数々の取り組みを行っており、今後の少子超高齢社会が進む中で、その役割の重要性はますます増していくものと考えられます。

生まれた時から高齢者まで、不断の健診体制により、一人ひとりの人生を予防の観点から見守り、いわゆるPHR (Personal Health Record) のデータの基となる母

をはじめ、「東京都健康推進プラン21」や「東京都がん対策推進計画」など、施策を進める上での柱となる計画の改定を行いました。「東京都保健医療計画」では、「誰もが質の高い医療を受けられ、安心して暮らせる『東京』の実現に向けて、予防から治療、在宅療養に至るまで、切れ目のない保健医療体制の構築を推進し、医療提供施設や行政、都民などさまざまな主体が、それぞれの役割を果たしながら取り組みを推進していくこととしています。また、疾病構造が、がん、心疾患、脳血管疾患、糖尿病などの生活習慣病を中心とするものに変化していることから、ライフステージを通じた健康づくりや生活習

慣の改善などの取り組みを進めていくことを重視しています。

「東京都健康推進プラン21(第三次)」では、「健康寿命の延伸」を総合目標に掲げ、生活習慣病の発症・重症化予防など、他、子どもや高齢者、女性の特性を踏まえた取り組みを推進していくこととしています。また、「東京都がん対策推進計画(第三次)」では、がんのリスク因子となる生活習慣や生活環境等についての普及啓発の他、がんの早期発見・早期治療のため検診受診率の向上や精度管理の向上等に取り組んでいくこととしています。

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる東京の実現のためには、東京都予防医学協会の皆様をはじめ関係団体や区市町村等、さまざまな保健医療分野に携わる関係者のお力添えが必要です。都は皆様と手を携えながら、福祉・保健・医療サービスの一層の充実に全力を尽くしてまいります。引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

成田友代

東京都保健医療局 技監



最後に、本年が皆様方にとりましてよき一年となりますことを祈念いたしまして、年頭ご挨拶とさせていただきます。